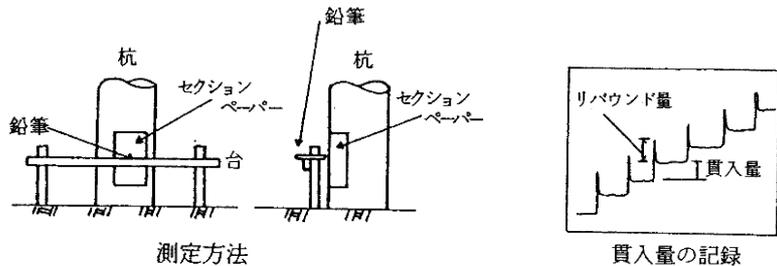


3-6 直接測定による出来形管理上の留意点

工 種	項 目	出来形管理上の留意点	
1 共通 工事	掘削	①幅(W)及び施工延長の測定は、原則として水平距離とするが、法長(L)の場合は、斜距離とする。 ②法面の地質区分点等の計測ポイントには、杭等を打ち計測位置を明確にする。 ③岩盤線はその変化点の標高と中心線又は基準点からの位置を出来形図に記入する。 ④出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。 ⑤出来形図は、横断面等を利用して作成する。	
	盛土	基準高(V)	①測定は、原則として水平距離とするが、法長の場合は斜距離とする。
		幅(W)	②出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
		法長(L)	③出来形図は、横断面等を利用して作成する。
		施工延長	
	石積み コンクリート ブロック積み 石張工 コンクリート ブロック張り 〔河川護岸〕 は除く	基準高(V) 厚さ(T ₁) (T ₂) 法長(L) 施工延長 凹凸	① (T ₁) は法面に対して直角、(T ₂) は水平の厚さを測定する。 ②法長はコンクリート基礎の管理の場合と同一箇所で行う。 ③法長は変化点ごとに測定する。 ④施工延長の測定は天端長とし、曲線区間等にあつては、展開図に合った測定を行う。 ⑤凹凸の管理基準値は、法長 3 m の場合、凹と凸の差が 3 cm 以内となること (300 cm × 0.01 = 3 cm)。 ⑥勾配の規格値については、±0.5 分程度を目標とする。 ⑦測定位置は、白ペンキ等でマーキングする。 ⑧出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。 ⑨出来形図は、横断面等を利用して作成する。
	基礎杭打工 木杭 プレキャスト コンクリート 杭 鋼管杭 場所打杭 深礎杭	基準高(V) 偏心 (e)	①基準高の測定は、杭の打込み完了後に行う。 ②偏心は、設計杭中心から打設杭中心までの偏心量を測定する。 ③貫入量及びリバウンド量の測定方法。 鉛筆は一定速度で横に動かす。



工 種	項 目	出来形管理上の留意点
1 共通 工事	矢板打工 (矢板護岸を 含む)	①基準高は、矢板の打込み完了後に測定する。 ②施工延長は矢板の天端長で測定する。 ③測定位置は、白ペンキ等でマーキングする。 ④笠コンクリートの管理は、「1 共通工事 コンクリート付帯構造物」 の基準を適用する。 ⑤出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
	基準高(V)	
	中心線の ズレ (e)	
オープンケー ソン	基準高(V)	①高さ(H)は、ケーソンの刃先を起点としてドラフトマークを記入し、 取上寸法として管理する。
	幅(B)	②偏位は、1 ロット毎に測定する。
	厚さ(T)	③出来形管理資料として、ウエル沈下曲線を作成する。
	高さ(H)	④測定位置は、白ペンキ等でマーキングする。
	長さ(L)	⑤出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
	偏位(e)	⑥出来形図は、構造図等を利用して作成する。
栗石基礎 碎石基礎 砂基礎 均しコンクリ ート	幅(B) 厚さ(T) 施工延長	①重要構造物とは、一般に樋門、橋梁、機場、ダム、頭首工、現場打 フリューム及びこれと同等と認められる構造物をいう。 ②栗石基礎は、目潰しを充填し、突固め後に厚さを測定する。 ③測定位置は本体工と同一箇所とする。 ④出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
コンクリート 付帯構造物	基準高(V)	①線的な構造物の測定位置は、白ペンキ等でマーキングする。
コンクリート 基礎	幅(B)	②出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
コンクリート 側溝	厚さ(T)	③出来形図は、構造図等を利用して作成する。
コンクリート 管渠	高さ(H)	
横断構造物	施工延長 (又は長さ)	
コンクリート 擁壁		
その他上記に 準ずるもの		

工 種	項 目	出来形管理上の留意点	
1 共 通 工 事	精度を要するもの	①精度を要する構造物の箱抜き箇所については、施工中に詳細図と照合し、位置、寸法等を十分にチェックする。 ②出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。 ③測定位置は、白ペンキ等でマーキングする。 ④出来形図は、構造図等を利用して作成する。	
	分水工計量部		基準高(V)
	ゲート戸当部		幅(B)
	橋台沓部		高さ(H)
			長さ(L)
	U字溝	基準高(V)	①圃場等に分水するための小規模なものは、基準高、中心線のズレは除く。 ②測定位置は、白ペンキ等でマーキングする。 ③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
	U字フリーム	中心線のズレ(e)	
	ベンチフリーム	施工延長	
	土水路	基準高(V)	①寸法が図示されている場合は、溝畔の幅、高さ等についても管理する。 ②断面変化点でも測定する。 ③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
		幅(B)	
		高さ(H)	
		施工延長	
	鉄筋組立	かぶり(t)	①出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
		中心間隔(b)	

工 種	項 目	出来形管理上の留意点	
2 ほ 場 整 備 工 事	表土扱い 厚さ(T)	①施工前の表土厚についても測定する。 ②出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。 ③つぼ掘により、厚さ(T)を測定してもよい。	
	基盤造成 表土整地	①基盤整地における基準高は、図面等で指定した場合に適用する。 ②出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。 ③均平度の測定は、基盤整地後と表土整地後に行う。また、表土厚を標高差測定による場合は、均平度を標高で管理する。	
	畦畔復旧	①高さの測定に当たっては、標高の高い圃場をベースとする。 ②出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。 ③測定箇所には、竹串等でマーキングを行う。	
	道路工 (砂利道)	幅(B)	①厚さは、まき出し後又は転圧後に砂利厚分を掘り起こして測定する。 ②出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
		高さ(H)	
		厚さ(T) 施工延長	

工 種	項 目	出来形管理上の留意点	
3 農 用 地 造 成 工 事	耕起深耕 耕起深(T)	①つぼ堀以外の測定箇所は、検土杖、鉄筋などにより測定する。 ②測定位置は、メッシュの交点とする。 ③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。	
	テラス (階段畑)	幅(B ₁)	①法勾配は、図面等で指定した場合に管理する。 ②側溝がプレキャストコンクリート製の場合は、製品の種類に応じて、「1 共通工事 U字溝等」又は「6 水路工事 鉄筋コンクリート大型フリーム、鉄筋コンクリートL形水路」等を適用する。 ③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
		耕起幅 (B ₂)	
		側溝幅 (B ₃)	
		側溝高さ (H)	
		法勾配(S)	
	道路工 (耕作道)	幅(B)	①砂利舗装の場合の厚さは、まき出し後又は転圧後に砂利厚分を掘り起こして測定する。 ②側溝がプレキャストコンクリート製の場合は、製品の種類に応じて、「1 共通工事 U字溝等」又は「6 水路工事 鉄筋コンクリート大型フリーム、鉄筋コンクリートL形水路」等を適用する。 ③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
厚さ(T)			
側溝幅(b)			
側溝高さ (H)			
土壌改良	pH測定	① pH測定は JIS Z 8802 による。	
改良山成	基準高(V)	①法勾配は、図面等で指定した場合に管理する。 ②法長についても測定する。 ③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。	
	法勾配(S)		

工 種	項 目	出来形管理上の留意点	
4 農 道 工 事	路盤工	基準高(V)	①路盤工については、路床上部、下層路盤、上層路盤の順に締固め後測定する。
		幅(B)	②基準高は、各層別に3箇所測定し、併せて厚さについてもチェックする。
		厚さ(T)	③出来形測定と写真撮影は、同一箇所で行う。
		中心線のズレ(e)	
		施工延長	
	コンクリート 舗装工	幅(B)	①平坦性については舗装試験法便覧による。
	アスファルト 舗装工	厚さ(T)	②採取したコアは、採取位置、月日をマーキングし保管するとともに密度試験にも併用する。
		中心線のズレ(e)	③コアホールは、検査完了後直ちに舗装材料で充填する。
		施工延長	④測定位置は、路盤工と同一箇所とする。
		平坦性(F)	⑤出来形測定と写真撮影は、同一箇所で行う。
			⑥舗装完了後の目視観察では、材料分離、ふくれ、フラッシュ、ヘアクラック等の外観についてチェックする。
	砂利舗装工	幅(B)	①厚さは、まき出し後又は転圧後に砂利厚分を掘り起こして測定する。
		厚さ(T)	②出来形測定と写真撮影は、同一箇所で行う。
		施工延長	
	道路トンネル	支 保 工	幅(b)
間隔(l)			②支保工には、白ペンキ等で通しナンバーをマーキングする。 ③支保工管理に当たっては、測点及び切羽状況と関連させた図面を作成する。

工 種	項 目	出来形管理上の留意点
4 農 道 工 事	道路トンネル コン ク リ ー ト 覆 工	<p>①基準高は、スパン中心部で測定する。</p> <p>②巻厚について</p> <p>イ. コンクリート打設前の巻立空間測定は、型枠の据付け終了後に測定する。</p> <p>ロ. コンクリート打設後の巻厚は、妻型枠（断面型枠）を取り外した後に測定する。</p> <p>ハ. 削孔による巻厚測定において、湧水が多い場合は、測定間隔等について監督職員と打合わせする。</p> <p>ニ. 削孔測定後の各ホールは、検査終了後にモルタルで充填する。ただし、アーチ部は滑落等が考えられるので、監督職員と協議する。</p> <p>③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。</p>
	道路トンネル (NATM) 支 保 工 吹付コンクリート厚(T)	<p>①支保工幅は、スプリングライン (SL) において全体幅を測定し、中心線からの左右幅も併せてチェックする。</p> <p>②支保工には、白ペンキ等で通しナンバーをマーキングする。</p> <p>③支保工管理に当たっては、測点及び切羽状況と関連させた図面を作成する。</p> <p>①コア及び削孔ホールは、検査終了後、吹付材料と同等の材料で充填する。</p> <p>②検測ピンにより吹付厚さを管理する場合</p> <p>イ. 検測ピンの仕様は図面等による。</p> <p>ロ. 検測ピンは、概ね 10 m²につき 1 本の割合で吹付法面に対して直角に設置する。</p> <p>ハ. 検測ピンは、吹付面より設計厚程度を露出させ、その部分を白ペンキ等でマーキングする。</p> <div data-bbox="845 1478 1228 1814" style="text-align: center;"> </div> <p>③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。</p>

工種	項目	出来形管理上の留意点		
4 農 道 工 事	道路トンネル (NATM)	ロ ツ ク ボ ル ト	①穿孔時に、孔の長さのチェックが簡単にできる方法を講じておくことが望ましい。	
		位置間隔 (L)		
		角度(θ)		
		深さ(l)		
	コ ン ク リ ー ト 覆 工		基準高(V)	①基準高は、スパン中心部で測定する。
			幅(B)	②巻厚について イ. コンクリート打設前の巻立空間の測定は、型枠据付け終了後に測定する。
			巻厚(T)	ロ. コンクリート打設後の巻厚は、妻型枠（断面型枠）を取外した後に測定する。
			高さ(H)	ハ. 削孔による巻厚測定において、湧水が多い場合は、測定間隔等について監督職員と打合わせする。
			中心線のズレ(e)	ニ. 削孔測定後の各ホールは、検査終了後にモルタルで充填する。ただし、アーチ部は滑落等が考えられるので、監督職員と協議する。
	施工延長	③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。		

工 種	項 目	出来形管理上の留意点
5 水路トンネル トンネル 工事	水路トンネル 支保工	<p>①支保工幅は、スプリングラインにおいて全体幅を測定し、中心線からの左右幅も併せてチェックする。</p> <p>②支保工の建込み後、地山の押出しあるいは、盤ぶくれがある場合は、監督職員と打合せのうえ、内空変位測定、天端沈下測定等を行い、周辺地山の挙動及び支保工変位等を継続的に把握する。(b、b'、V₁～V₃)</p> <p>③支保工には、白ペンキ等で通しナンバーをマーキングする。</p> <p>④支保工管理に当たっては、測点及び切羽状況と関連させた図面を作成する。</p> <div data-bbox="678 806 1204 1265" style="text-align: center;"> <p>測線配置例</p> </div>
	覆工コンクリート	<p>①基準高は、スパン中心部で測定する。</p> <p>②巻厚について</p> <p>イ. コンクリート打設前の巻立空間の測定は、型枠据付終了後に測定する。</p> <p>ロ. コンクリート打設後の巻厚は、妻型枠（断面型枠）を取外した後に測定する。</p> <p>ハ. 削孔による巻厚測定において、湧水が多い場合は、測定間隔等について監督職員と打合せする。</p> <p>ニ. 可燃性ガスが発生するトンネルでは、削孔による巻厚測定は、原則として行わない。</p> <p>ホ. 削孔測定後の各ホールは、検査終了後にモルタルで充填する。ただし、アーチ部は滑落等が考えられるので、監督職員と協議する。</p> <p>③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。</p>

工 種	項 目	出来形管理上の留意点
6 水路 工事	現場打開水路 基準高(V)	①本基準は、現場打開水路に適用する。 ②基準高は、スパン中心部で測定する。 ③厚さ等は、原則として上流側ジョイント部で測定する。 ④スパン長には、目地材を含む。 ⑤出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。 ⑥高さ(H)は左右とも測定する。
	幅(B)	
	厚さ(T)	
	高さ(H)	
	中心線のズレ(e)	
	スパン長(L)	
	施工延長	
現場打サイホン	基準高(V)	①本基準は、内水圧がかかる場合に適用する。 ②基準高は、スパン中央部で測定する。 ③厚さ等は、原則として上流側ジョイント部で測定する。 ④スパン長には、目地材を含む。 ⑤出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
	幅(B)	
	厚さ(T)	
	高さ(H)	
	中心線のズレ(e)	
	スパン長(L)	
	施工延長	

工 種	項 目	出来形管理上の留意点
6 水路 工事	現場打暗渠 基準高(V)	①本基準は、内水圧のかからない現場打ちの暗渠工に適用するものとし、コンクリート二次製品を使用する場合は基準高、中心線のズレ及び施工延長について適用する。
	幅(B)	②基準高は、スパン中心部で測定する。
	厚さ(T)	③厚さ等は、原則として上流側ジョイント部で測定する。
	高さ(H)	④スパン長には、目地材を含む。
	中心線のズレ(e)	⑤出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
	スパン長(L)	
	施工延長	
鉄筋コンクリート大型フリーム 鉄筋コンクリートL形水路	基準高(V)	①基準高は、スパン中心部で測定する。
	幅(B)	②L形水路の底版厚さ等は上流側ジョイント部で測定する。
	厚さ(T)	③大型フリームの場合、厚さ、幅については適用しない。
	中心線のズレ(e)	④底版グラウトを施工する場合は、隣接孔からの材料逸出をもって注入終了の目安とする。
	施工延長	⑤出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
ボックスカルバート水路	基準高(V)	①基準高は、スパン中心部で測定する。
	中心線のズレ(e)	②出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
	施工延長	

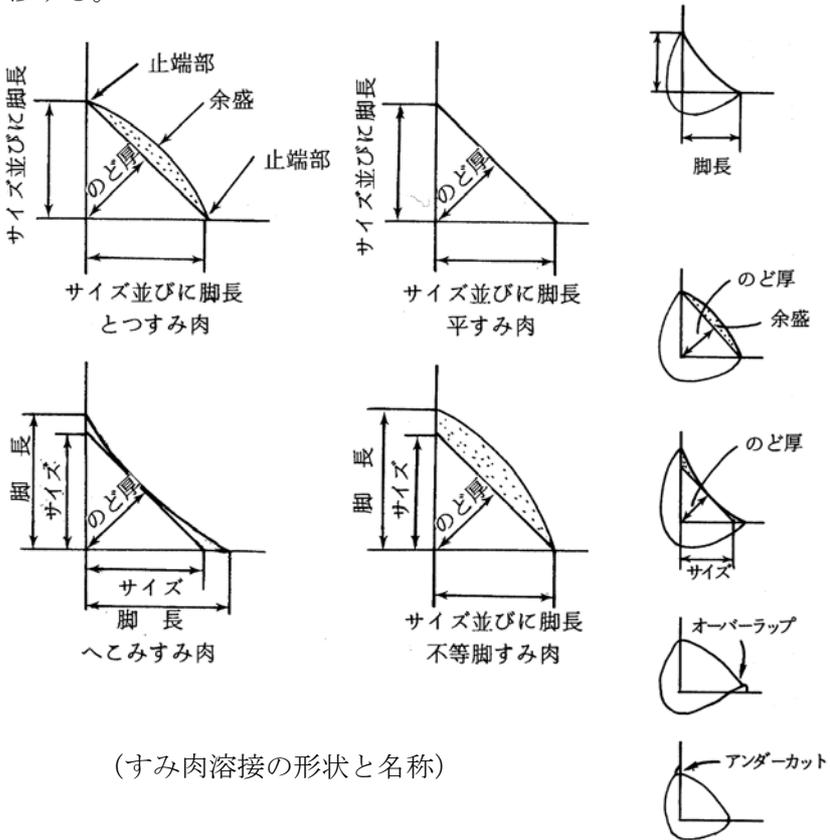
工 種	項 目	出来形管理上の留意点
7 河 川 及 び 排 水 路	コンクリート 法覆工	基準高 (V)
	アスファルト 法覆工	厚さ (T)
		法長 (L)
		施工延長
工 事	コンクリート ブロック積み 水路	基準高 (V)
	鉄筋コンクリ ート柵渠	幅 (B)
		高さ (H)
		中心線の ズレ(e)
		施工延長
ライニング水 路	連節ブロック	基準高 (V)
	コンクリート マット	幅 (B)
		法長 (L)
		施工延長

工 種	項 目	出来形管理上の留意点	
8 管 水 路	管体基礎工 (砂基礎等)	幅(B) 高さ(H)	①高さ、幅は、締固め後に測定する。 ②測定位置は、原則として管体工と同一箇所とする。 ③出来形測定と写真撮影は同一箇所とする。
工 事	管水路 (遠心力鉄筋 コンクリート 管)	基準高(V)	①ジョイント間隔の管理基準値は、接合時の値であり4箇所の平均値とする。 ②ジョイント間隔の規格値は、埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。 ③通水試験については、「土木工事施工管理基準 参考資料1」を参照。 ④出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
	RC管	中心線の ズレ(e)	
		ジョイント 間隔(z)	
		施工延長	
	管水路 (ダクタイル 鋳鉄管)	基準高(V)	①ジョイント間隔の管理基準値は、接合時の値であり4箇所の平均値とする。 ②ジョイント間隔の規格値は、埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。 ③通水試験については、「土木工事施工管理基準 参考資料1」を参照。 ④出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
	K形 T形 U形	中心線の ズレ(e)	
	(強化プラスチック 複合管)	ジョイント 間隔(z)	
	B形、T形 C形 D形	施工延長	
	管水路 (硬質ポリ塩 化ビニル管)	基準高(V)	①基準高は、管頂で測定する。 ②埋設深は、埋戻し時に測定する。 ③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
		埋設深(H)	
		中心線の ズレ(e)	
		施工延長	

工 種	項 目	出来形管理上の留意点	
8 管 水 路 工 事	管水路 (鋼管)		
	管 布 設	基準高(V)	①測定作業に当たっては、塗覆装面に傷などを付けないように測定器具等の取り扱いに注意する。
		中心線のズレ(e)	②出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
		施工延長	
	V型開先 (両面溶接)	ルート ギャップ (s)	①ベベル角度、ルートフェイスの測定は、鋼管が現場に搬入された時点で行う。なお、現場切り合わせ箇所は仮据付け調整、整形後に測定する。
		ベベル 角度(θ)	②ルートギャップ(継目間隙)については、据付け方向、組合わせ目違い(段違い)及び真円度の調整と同時に行い、仮溶接後、溶接ゲージ等を用いて測定する。
		ルート フェイス (a)	③両面溶接では裏溶接面のガウジング仕上げの状態についても確認する。 ④出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
	V型開先テー パ付き直管 (両面溶接)	ルート ギャップ (s)	①ベベル角度、ルートフェイスの測定は、鋼管が現場に搬入された時点で行う。なお、現場切り合わせ箇所は仮据付け調整、整形後に測定する。
		ベベル 角度(θ)	②ルートギャップ(継目間隙)については、据付方向、組合わせ目違い(段違い)及び真円度の調整と同時に行い、仮溶接後、溶接ゲージ等を用いて測定する。
		ルート フェイス (a)	③両面溶接では裏溶接面のガウジング仕上げの状態についても確認する。 ④出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
	V型開先 (片面溶接)	ルート ギャップ (s)	①ベベル角度、ルートフェイスの測定は、鋼管が現場に搬入された時点で行う。なお、現場切り合わせ箇所は仮据付け調整、整形後に測定する。
		ベベル 角度(θ)	②ルートギャップ(継目間隙)については、据付方向、組合わせ目違い(段違い)及び真円度の調整と同時に行い、仮溶接後、溶接ゲージ等を用いて測定する。
ルート フェイス (a)		③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。	

工 種	項 目	出来形管理上の留意点
8 管 水 路 工 事	V型開先 (片面裏当溶接)	<p>①ベベル角度、ルートフェイスの測定は、鋼管が現場に搬入させた時点で行う。なお、現場切り合わせ箇所は仮据付け調整、整形後に測定する。</p> <p>②ルートギャップ（継目間隙）については、据付け方向、組合わせ目違い（段違い）及び真円度の調整と同時に行い、仮溶接後、溶接ゲージ等を用いて測定する。</p> <p>③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。</p>
	ルート ギャップ (s)	
	ベベル 角度(θ)	
	X型開先 (両面溶接)	<p>①ベベル角度、ルートフェイスの測定は、鋼管が現場に搬入された時点で行う。なお、現場切り合わせ箇所は仮据付け調整、整形後に測定する。</p> <p>②ルートギャップ（継目間隙）については、据付方向、組合わせ目違い（段違い）及び真円度の調整と同時に行い、仮溶接後、溶接ゲージ等を用いて測定する。</p> <p>③両面溶接では裏溶接面のガウジング仕上げの状態についても確認する。</p> <p>④出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。</p>
	ルート ギャップ (s)	
	ベベル 角度 (θ_1) (θ_2)	
	X型開先テー パ付き直管 (両面溶接)	<p>①ベベル角度、ルートフェイスの測定は、鋼管が現場に搬入された時点で行う。なお、現場切り合わせ箇所は仮据付け調整、整形後に測定する。</p> <p>②ルートギャップ（継目間隙）については、据付方向、組合わせ目違い（段違い）及び真円度の調整と同時に行い、仮溶接後、溶接ゲージ等を用いて測定する。</p> <p>③両面溶接では裏溶接面のガウジング仕上げの状態についても確認する。</p> <p>④出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。</p>
	ルート ギャップ (s)	
	ベベル 角度 (θ_1) (θ_2)	
	ルート フェイス (a)	

工 種	項 目	出来形管理上の留意点
8 管 水 路 工 事	周継手溶接 目違い(e) 両面溶接 片面溶接	①全周を目視し、懸念のある箇所を含めデップスゲージ、溶接ゲージ等を用いて測定し、確認する。
	余盛高(h)	①全周を目視し、懸念のある箇所を含めデップスゲージ、溶接ゲージ等を用いて測定し、確認する。 ②許容範囲であっても余盛が高い場合は、管内面の層流を乱すので、平滑になるようにグラインダー等で取り除くことが望ましい。
	アンダーカット(h)	①測定は、溶接ゲージ等を用いて凹部を測定する。 ②ビード表面は、滑らかで凹凸が少なく、割れ、クレータ、オーバーラップ等の欠陥があってはならない。
	ビード外観	③割れ、クレータ等の欠陥があった場合には、最低欠陥部から5cm程度までガウジングを行い、補修溶接を行う。 ④オーバーラップは鋭い切り欠きを形成するので必ずハツリ取るか補修する。
	その他	<p>(突合せ継手溶接の形状と名称)</p>
周継手溶接テーパ付き直管	目 違 い (e)	①全周を目視し、懸念のある箇所を含めデップスゲージ、溶接ゲージ等を用いて測定し、確認する。
	両面溶接	
	余盛高(h)	①全周を目視し、懸念のある箇所を含めデップスゲージ、溶接ゲージ等を用いて測定し、確認する。 ②許容範囲であっても余盛が高い場合は、管内面の層流を乱すので、平滑になるようにグラインダー等で取り除くことが望ましい。

工 種	項 目	出来形管理上の留意点
8 管 水 路 工 事	すみ肉溶接	<p>①目視点検により溶接量の少ない箇所がある場合は、溶接ゲージ等で正確に測定し、基準値以上であることを確認する。</p> <p>②ビード止端部の形状については滑らかな形状となっていることを確認する。</p> <p>③脚長及びのど厚不足の箇所については、補修溶接を行う。</p> <p>④オーバーラップは鋭い切り欠きを形成するので必ずハツリ取るか補修する。</p>
	脚長 (T)	<p>のど厚(L)</p>  <p>(すみ肉溶接の形状と名称)</p>
	アンダーカット(h)	<p>①測定は、溶接ゲージ等を用いて凹部を測定する。</p> <p>②ビード表面は、滑らかで凹凸が少なく、割れ、クレータ、オーバーラップ等の欠陥があつてはならない。</p> <p>③割れ、クレータ等の欠陥があつた場合には、最低欠陥部から5cm程度までガウジングを行い、補修溶接を行う。</p> <p>④オーバーラップは鋭い切り欠きを形成するので必ずハツリ取るか補修する。</p>
	その他	<p>ピット</p> <p>ビード外観</p>

工 種	項 目	出来形管理上の留意点
8 管 水 路	放射線透過試験 管理基準 別表オ参照	①撮影フィルムの透過写真観察は、暗所において十分明るいフィルム観察器を用いて観察する。 欠陥等の分類に当たっては、透過写真等級分類用ゲージを用いて行う。
	素地調整	①溶接部のスラグ、スパッター及び錆、泥、水分、ほこり等が完全に除去されていることを確認する。 溶接ビートの局部的凹凸はサンダー等で平滑にする。
工 事	エポキシ樹脂 塗装	①中塗り、上塗りの塗装間隙に十分注意する。 ②使用塗装量の種類、使用量については、空缶のラベル、空缶量で確認する。
	膜厚	①膜厚測定は、塗膜が十分乾燥した後に行う。また、測定に当たっては塗装面に傷などを付けないようにする。 ②測定器具は、ゼロ点調整及び基準膜厚調整を適切に行う。
	ピンホール	①検査に当たっては、塗膜表面の全面にゆっくりむらなく電極を当て、スパーク火花を見落とさないようにする。 ②スパーク箇所にはマーキングを行い、補修塗装を行う。
	付着性	①検査位置は管端から監督職員が指示した長さのところまで行う。
ジョイントコ ート	焼損	①外観上の欠陥、重ね合わせの状態について点検する。
	両端のめくれ	
	ふくれ	
	工場被覆部との重ね代(a)	
	ピンホール	①検査に当たっては、塗膜表面の全面にゆっくりむらなく電極を当て、スパーク火花を見落とさないようにする。 ②スパーク箇所にはマーキングを行い、補修塗装を行う。
	膜厚	①膜厚測定は、塗膜が十分乾燥した後に行う。また、測定に当たっては塗装面に傷などを付けないようにする。 ②測定器具は、ゼロ点調整及び基準膜厚調整を適切に行う。

工 種	項 目	出来形管理上の留意点		
8 管 水 路 工 事	管水路 (埋設とう性管) ダクタイル鋳鉄 管 鋼管 強化プラスチック複合管			
	たわみ率	締 固 め 程 度	なし	①管据付け時の測定の際、天・地・左・右をペイント等でマーキングしておき、以後同一点で測定する。 ②出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
			I	
			I 礫質土	
			II	

工 種	項 目	出来形管理上の留意点	
8 管 水 路 工 事	シールド工事 (一次覆工)	①出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。	
	コンクリート セグメント		基準高(V)
	鋼製セグメン ト		中心線の ズレ(e)
			施工延長
	たわみ率	①管据付け時の測定の際、天・地・左・右をペイントでマーキングしておき、以後同一点で測定する。	
	シールド工事 (二次覆工) 既製管覆工	①ジョイント間隔の管理基準値は、接合時の値であり4箇所の平均値とする。 ②ジョイント間隔の規格値は埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。 ③通水試験については、「土木工事施工管理基準 参考資料1」を参照。 ④出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。	
	推進工事		基準高(V)
			中心線の ズレ(e)
			ジョイン ト 間 隔 (Z)
			施工延長
	たわみ率	①管据付け時の測定の際、天・地・左・右をペイントでマーキングしておき、以後同一点で測定する。	

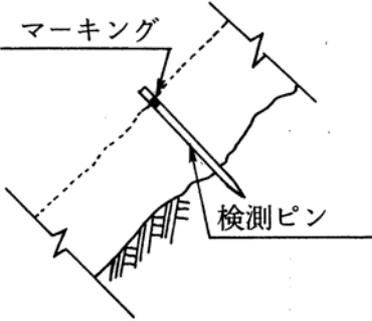
工 種	種 目	出来形管理上の留意点
9 畑 か ん 施 設 工 事	スプリンクラー 埋 設 深 (H)	①埋設深は埋戻し前に測定する。 ②出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。

工 種	項 目	出来形管理上の留意点	
10 橋 梁 工 事	コンクリート桁	幅(B)	①出来形測定に当たっては、測定項目のほか、特別仕様書で指定された箇所についても測定する。
	〔ポストテンション桁〕	高さ(H)	②測定位置は、必要に応じて白ペンキ等でマーキングする。
		桁長(L)	③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
		横方向の最大曲がり(δ) (桁長 10.5m 未満)	④出来形図は、構造図等を利用して作成する。
		横方向の最大曲がり(δ) (桁長 10.5m 以上)	
鉄筋コンクリート床版工	鉄筋コンクリート床版工	基準高(V)	①出来形測定に当たっては、測定項目のほか、特別仕様書で指定された箇所についても測定する。
		幅(B)	②測定位置は、必要に応じて白ペンキ等でマーキングする。
		厚さ(T)	③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。 ④出来形図は、構造図等を利用して作成する。
鉄筋コンクリート高欄及び地覆工	鉄筋コンクリート高欄及び地覆工	高欄幅(B)	①出来形測定に当たっては、測定項目のほか、特別仕様書で指定された箇所についても測定する。
		高欄高さ(H)	②測定位置は、必要に応じて白ペンキ等でマーキングする。
		地覆幅(B)	③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
		地覆高さ(H)	④出来形図は、構造図等を利用して作成する。

工 種	項 目	出来形管理上の留意点
11 橋 梁 下 部 工 事	橋台工	①出来形測定に当たっては、測定項目のほか、特別仕様書で指定された箇所についても測定する。 ②測定位置は、必要に応じて白ペンキ等でマーキングする。 ③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。 ④出来形図は、構造図等を利用して作成する。
	敷幅(B)	
	控壁の厚さ(T)	
	高さ(H)	
	中心線のズレ(e)	
	天端長(L ₁)	
	敷長(L ₂)	
	橋脚工 〔張出式〕 〔重力式〕 〔半重力式〕	橋台脊部
基準高(V)		①出来形測定に当たっては、測定項目のほか、特別仕様書で指定された箇所についても測定する。 ②測定位置は、必要に応じて白ペンキ等でマーキングする。 ③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。 ④出来形図は、構造図等を利用して作成する。
天端長(l ₁)		
敷長(l ₂)		
天端幅(B ₁)		
敷幅(B ₂)		
高さ(H)		
橋脚中心間距離(L)		
中心線のズレ(e)		

工 種	項 目	出来形管理上の留意点
11 橋 梁 下 部 工 事	橋脚工 (ラーメン式)	①出来形測定に当たっては、測定項目のほか、特別仕様書で指定された箇所についても測定する。
	基準高(V)	②測定位置は、必要に応じて白ペンキ等でマーキングする。
	天 端 長 (l)	③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
	天端幅 (B_1)	④出来形図は、構造図等を利用して作成する。
	中間幅(d)	
	基礎幅 (B_2 、 b)	
	高さ(H)	
	厚さ(T)	
		橋脚中心 間 距 離 (L)
	中心線の ズレ(e)	

工 種	項 目	出来形管理上の留意点
12 法 面 保 護 工 事	ラス張 植生マット 植生シート 繊維ネット	面積(A) ①図面に寸法が明示されている箇所を測定する。
	張芝 人工張芝	アンカー ピン数 アンカー ピン及び 止め釘 ①アンカーピン等は着色を行う。 ②出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
	種子散布	面積(A) ①図面に寸法が明示されている箇所を測定する。
	客土吹付	厚さ(T) ①管理孔を設置して検測する。 ②管理孔の寸法は10×10 cmとして、その厚さは管理孔の四隅で測定した値の平均値とする。 ③コア及び削孔ホールは、検査終了後、吹付材料と同等の材料で充填する。
		面積(A) ①図面に寸法が明示されている箇所を測定する。
	植生基材吹付	厚さ(T) ①管理孔を設置して検測する。 ②管理孔の寸法は10×10 cmとして、その厚さは管理孔の四隅で測定した値の平均値とする。 ③コア及び削孔ホールは、検査終了後、吹付材料と同等の材料で充填する。
		面積(A) ①図面に寸法が明示されている箇所を測定する。
	吹付枠	①出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
	梁延長	
	梁間隔 (L)	
	梁断面(H) (B)	

工 種	項 目	出来形管理上の留意点
12 法 面 保 護 工 事	コンクリート 吹付 モルタル吹付	<p>吹付厚さ (T)</p> <p>①コア及び削孔ホールは、検査終了後、吹付材料と同等の材料で充填する。</p> <p>②検測ピンにより吹付厚さを管理する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> イ. 検測ピンの仕様は図面等による。 ロ. 検測ピンは、概ね 10 m²につき 1 本の割合で吹付法面に対して直角に設置する。 ハ. 検測ピンは、吹付面より設計厚程度を露出させ、その部分を白ペンキ等でマーキングする。  <p>③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。</p>

工種	項目	出来形管理上の留意点
13 暗 渠 排 水 工 事	吸水渠 布設深 (H)	①布設深は、埋戻し前に測定し、併せて勾配についてもチェックする。 ②被覆材として、モミガラ、砕石等を使用する場合は、被覆材の寸法表示箇所についても測定する。
	間隔(B)	③施工延長は、1本ずつ管理するほか、全体の施工延長についても管理する。
	施工延長	④出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
13 暗 渠 排 水 工 事	集水渠(支線) 導水渠(幹線) 布設深 (H)	①布設深は、埋戻し前に測定し、併せて勾配についてもチェックする。 ②施工延長は、集水渠及び導水渠の区分ごとに管理するほか、1本ごと及び全体の施工延長についても管理する。
	施工延長	③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。

工 種	項 目	出来形管理上の留意点
14 フ イ ル ダ ム 工 事	監査廊 (暗渠タイプ)	<p>①基準高は、スパン中央部で測定する。</p> <p>②スパン長には、目地材を含む。</p> <p>③パイプクーリングを行う場合は、配管延長、間隔等についても測定する。</p> <p>④出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。</p>
	基準高(V)	
	幅(B)	
	厚さ(T)	
	高さ(H)	
	中心線のズレ(e)	
	スパン長	
	施工延長	
堤体盛土	ゾ ー ン	<p>①各ゾーンのまき出し厚さについても測定する。</p> <p>②堤体法面の保護工としてコンクリートブロック張り、連節ブロックを施工する場合は、「1 共通工事 コンクリートブロック張り」及び「7 河川及び排水路工事 連節ブロック」を適用する。</p> <p>③コンタクトクレーを施工する場合は、検測ピンなどにより厚さを測定する。</p> <p>④リップラップ工を施工する場合は、リップラップ材の最大粒径についても測定する。</p> <p>⑤各年度の出来形図は、構造図等を利用して作成する。</p> <p>⑥出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。</p>
	幅	
	遮水ゾーン フィルターゾーン トランジションゾーン	
	ロックゾーン	
洪水吐	基準高(V)	<p>①基準高は、スパン中央部で3箇所測定する。</p> <p>②スパン長には目地材を含む。</p> <p>③各年度の出来形図は、構造図等を利用して作成する。</p> <p>④出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。</p>
	幅(B)	
	厚さ(T)	
	高さ(H)	
	中心線のズレ(e)	
	スパン長	
	施工延長	

工 種	項 目	出来形管理上の留意点	
15 頭 首 工 工 事	本体	①ゲート戸当部等の精度を要する箇所については、「1 共通工事 精度を要するもの」を適用する。 ②出来形測定に当たっては構造図の寸法表示箇所のほか、監督職員が指示する箇所についても測定する。 ③各年度の出来形図は、構造図等を利用して作成する。 ④測定位置は、必要に応じて白ペンキ等でマーキングする。 ⑤出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。	
	基準高(V)		
	幅(B)		
	厚さ(T)		
	高さ(H)		
	護床ブロック (異形ブロック)	面積(A)	①現場製作の場合は、型枠検査を行う。また、生コンクリートの品質管理も行う。 ②ブロックは、白ペンキ等で通しナンバーをマーキングする。 ③基準高は、原則としてブロック天端で測定する。 ④面積は、据付け完了後、全体面積を測定する。 ⑤1個当たりの重量、空隙率等特別仕様書に規定された事項についても管理を行う。
	基準高(V)		

工	種	項	目	出来形管理上の留意点
16	捨石工	基準高(V)		①基準高は、捨石天端で測定する。 ②施工前の底高についても測定する。 ③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
	海岸河川工事	消波ブロック	幅(B)	

工 種	項 目	出来形管理上の留意点
17 た め 池 改 修 工 事	堤体工	①測定は、原則として水平距離とするが、法長の場合は斜距離とする。 ②堤体法面の保護工としてコンクリートブロック張り、連節ブロックを施工する場合は、「1 共通工事 コンクリートブロック張り」及び「7 河川及び排水路工事 連節ブロック」を適用する。 ③出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。 ④出来形図は、横断図等を利用して作成する。
	基準高(V)	
	堤幅(W)	
	法長(L)	
	施工延長	
	洪水吐工	①本基準は、現場打ち水路に適用する。 ②基準高は、スパン中央部で測定する。 ③厚さ等は、原則として上流側ジョイント部で測定する。 ④スパン長には、目地材を含む。 ⑤出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
	基準高(V)	
	幅(B)	
	厚さ(T)	
	高さ(H)	
	中心線のズレ(e)	
	スパン長(L)	
	施工延長(又は長さ)	
	樋管工 同上付帯構造物(土砂吐ゲート等)	①底樋がトンネルの場合の基準高は、スパン中央部で測定する。 ②底樋がトンネルの場合の厚さについて イ. コンクリート打設前の測定は、型枠の据付終了後に測定する。 ロ. コンクリート打設後の厚さは、妻型枠(断面型枠)を取外した後に測定する。 ハ. 削孔による厚さ測定において、湧水が多い場合は、測定間隔等について監督職員と打合せする。 ニ. 可燃性ガスが発生するトンネルでは、削孔による厚さ測定は、原則として行わない。 ホ. 削孔測定後の各ホールは、検査終了後にモルタルで充填する。ただし、アーチ部は滑落等が考えられるので、監督職員と協議する。 ③線的な構造物の測定位置は、白ペンキ等でマーキングする。 ④出来形図は、構造図等を利用して作成する。 ⑤出来形測定と写真撮影は同一箇所で行う。
	基準高(V)	
幅(B)		
厚さ(T)		
高さ(H)		
中心線のズレ(e)		
施工延長		